

国内初のサーバー第三者保守会社、リファーマビッシュ・保守・技術開発・物流の機能を集約 東京都荒川区に東京テクノセンターを開設 第三者保守会社としては国内初の保守・リペアサービスオペレーションセンター

データライブ株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役：山田和人 以下、データライブ）は、コンピュータサーバー分野では日本国内初の第三者保守・リペアサービス会社です。「IT 資源の最適化」をモットーに、保守期限切れサーバー(EOSL/EOL サーバー*¹)に対して、部品交換等メンテナンスを施すことで、通常使用が可能な状態に整備し(リファーマビッシュ*²)、ユーザーにローコスト、ロングライフのサーバー利用環境を提供してまいりました。

今後の需要拡大への対応と更なるサービス品質向上に向けて、この度、東京都荒川区に東京テクノセンターを開設、4月6日より稼働をスタートいたします。

欧米では約20年前から普及している保守期限切れサーバー(ESOL/EOL サーバー*¹)保守・リペアサービス事業に、データライブは2009年から日本で初めて取り組み、独自の保守技術開発体制とサービス体制を構築し、よりユーザーニーズに応えたサービス品質を実現してまいりました。その結果、現在まで累計約5000社と契約、今後3年間で事業規模は3倍増を計画しています。そのような背景から、今後の需要拡大に対応し、お客様へより高水準なサービスを提供する為に、東京都荒川区に、第三者保守会社としては国内初のEOSL/EOL*¹保守・リペアサービスオペレーションセンターを開設いたしました。

リファーマビッシュ、EOSL/EOL*保守サービス、保守技術開発、物流の機能を一拠点に集約、大規模な需要にも応え、独自の保守技術を更に磨き、より高品質なサービスを実現し、ワンストップでEOSL/EOL*¹保守技術サービスを提供する、日本で唯一の本格施設です。

【東京テクノセンターの特長・メリット】

■今後の需要拡大に向けた、大規模対応体制

ストックヤードを従来の1.5~3倍に拡大しました(サーバー・ネットワーク機器を6000台収容/従来比1.5倍、パーツ3万点/従来比3倍)。今後の需要拡大にも十分、対応が可能です。

■独自の保守技術開発体制を更に拡大、より一層のサービス品質の向上を図ります

データライブでは、これまで、他社にない精密検査機器の導入、「マイスター制度」により養成された経験豊富な保守プロ技術者の判断力(目利き力)、厳密なデータ管理による出荷後のフォローアップといった独自の保守技術開発体制を構築してきました。結果、出荷後の故障率が0~0.5%という驚異的な数値を実現してまいりました。今回の東京テクノセンター開設により、保守技術開発のための専用ラボ面積を従来比3倍に拡大したのに加え、マルチベンダによるSI・評価検証も行える「EOSLラボ」を新たに併設しました。これにより、より高度な第三者保守技術開発に取組み、一層のサービス品質の向上を図ります。

■集約化により、一層の迅速なサービス対応を実現

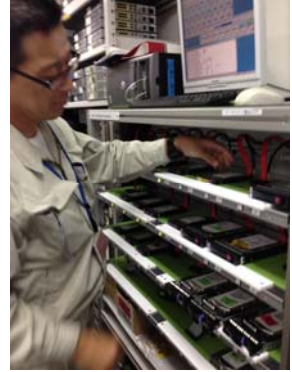
これまで別々の場所にあったエンジニアリング部門・メンテナンス部門と物流(部材ストックヤード)を一体化し、アクセス性の良さ(東京23区内に立地)も加わって、より迅速なサービス対応が可能となりました。24h365dの物流機能によりデリバリースピードが向上する他、業務プロセスの円滑化やコスト最適化も実現しました。

【東京テクノセンターの機能、概要】

■リファービッシュ*2

搬入された中古サーバー等の資材は、検品→キitting→機器試験の工程を経て整備(リファービッシュ)され、それぞれ物販用、保守部材用として保管されます。

特に、故障率の高い HDD(ハードディスクドライブ)については、長年の経験によりノウハウを蓄積してきた独自のリファービッシュ技術により品質管理を行い、高い信頼性を実現しています。



■保守サービス

データライブが対応する、パーツ保守、オンサイト保守、スポット修理の3つの保守サービス全てについて、東京テクノセンター内にあるメンテナンス部が全プロセス(下記)を24時間体制で一括管理しています。

ユーザーから障害発生連絡(コールセンター経由)



原因の特定



- ・部材(交換パーツ)の手配
- ・エンジニアの手配、オンサイトエンジニアのバックラインサポート
- ・原因を特定できない場合、テクニカルサービス部と連携して技術検証



故障対応(リペア)



上記のようなサービス一括管理体制とマルチベンダー対応、互換部品検証といった、データライブ独自の取組みにより、3000台以上(2015年3月現在)の機器の保守について、スピードと品質を兼ね備えたサービスを実現しています。

<障害対応フロー図>



■保守・リペア技術開発

①EOSL ラボ

データライブでは、これまで、他社にない精密検査機器の導入、「マイスター制度」により養成された経験豊富な保守プロ技術者の判断力(目利き力)、厳密なデータ管理による出荷後のフォローアップといった独自の保守技術開発体制を構築してきました。結果、出荷後の故障率が0~0.5%という驚異的な数値を実現してまいりました。今回の東京テクノセンター開設により、保守技術開発のための専用ラボ面積を従来比3倍に拡大したのに加え、お客様と同じシステム環境を再現して検証ができ、マルチベンダによるSI・評価検証も行える「EOSL ラボ」を新たに併設しました。これにより、更に高品質、高水準かつスピーディーな保守サービスを実現します。

②トレーニングセンターでの教育

保守・リペア技術の習得に必要な設備や技術の蓄積を行っており、定期的にトレーニングを行っています。

■物流

緊急時、24h365d 対応で出荷できる様に、保守部材(交換パーツ等)を東京テクノセンター内に常時保管しています。また、これまで別々の場所にあったエンジニアリング部門・メンテナンス部門と物流(部材ストックヤード)を一体化し、アクセス性の良さ(東京23区内に立地)も加わって、より迅速なサービス対応が可能となりました。



<東京テクノセンター 外観>



データライブでは、今後も、「IT 資源の最適化」をモットーに、保守サービスの向上に取り組んでまいります。

※注釈 1: EOSL(End Of Service Life)/EOL(End Of Life)は、過去に販売した製品に対する、メーカーによるアフターサービスや保守期間が終了することを指す。

2: リファビッシュとは、中古機器等を通常使用が可能な状態に整備することを指す。

【データライブ 事業内容について】

データライブは、コンピュータサーバー分野では日本国内初の第三者保守リペアサービス会社です。

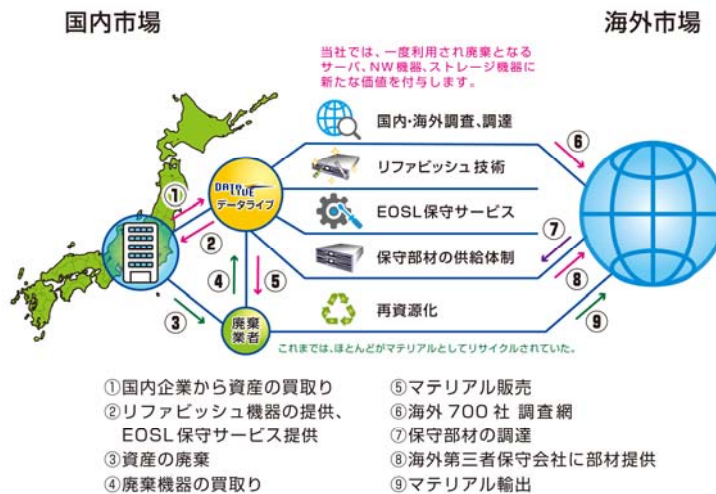
欧米では約20年前から普及している保守期限切れサーバー(ESOL/EOLサーバー*1)保守リペアサービス事業に、データライブは2009年から日本で初めて取組み、独自の保守技術開発体制とサービス体制を構築し、よりユーザーニーズに応えたサービス品質を実現してまいりました。その結果、これまでに製造、物流、広告、情報サービス等、幅広い業種の累計約5000社(2015年3月現在)と契約、今後3年間で事業規模は3倍増を計画しています。

【データライブ ESOL/EOL 保守事業へのこだわり】

データライブでは、ロングライフ、高品質の保守サービスを実現するために、以下にこだわっています。

- ・延伸保守の場合、交換部材・部品を確保出来るかが非常に重要です。データライブでは独自の調達ネットワークにより、欠かすことなく、いつでも直ぐに交換部材・部品を供給する体制を確立しました。
- ・メーカー純正部品が調達出来ない場合でも、独自に互換性を検証したコンパチブル部品を用意しています。
- ・全国ネットワークで、365日24時間対応しています。

<第三者保守会社のビジネスモデル>



【データライブ株式会社 会社概要】

代表者：代表取締役社長 山田 和人(やまだ かずひと)

本社：東京都文京区本郷2-38-4 本郷弓町ビル

東京テクノセンター：東京都荒川区東日暮里1-26-5

URL：<http://www.dataalive.co.jp/>

設立：2003年12月

資本金：3,000万円(2015年2月末現在)

事業内容：リユースサーバー事業

中古サーバーの販売、買取中古パソコンの販売・買取(古物商免許 東京都 第301030607156)

システムインテグレーション事業

【本件のお問合せ先】

データライブ株式会社 業務本部経営企画部 広報担当 阿部

[TEL:03-5684-5412](tel:03-5684-5412) FAX:03-5684-5417

E-mail:cpd@dataalive.co.jp